

ご挨拶

岡田昭男

はからずも商経論叢の田中正司先生退職記念号に挨拶文を執筆することになりました。田中正司先生は東京商科大学を卒業後、教職に入られ、主に横浜市立大学、一橋大学等で教職をとられました。また昭和六二年四月から、平成六年三月まで、神奈川大学短期大学教授として勤務され、その間短期大学部長も勤められました。

田中正司先生は一七紀とそれに続く古典学派の経済思想史に造詣が深く、先生の数多くの著作をみても、「現代の自由」をテーマに思想史の流れにおいて、ジョン・ロックやアダム・スミスを俎上にあげ研究を深めておられます。この当時の社会科学は未だ、経済学、法学、社会学等に分れていなかったことから、田中先生はこれらの学問の創生期の巨匠達の作品を経済・財政面から、また時には法学や社会学の面から意欲的に解明しようとされた努力が、多くの著作から読みとれ、われわれ後輩にとって教えられるところが多いと思います。

とりわけ田中正司先生はわれわれの短期大学部で法哲学の講座を開設されたことは、いろんな観方はあるでしょうが、私は大学院時代には、フランス公法、特にレオン・デュギーや、オーリユー等の法哲学を一時繙くことがあっただけに、ロックやアダム・スミスの法哲学もありうることに認識を改めた次第です。

田中正司先生は神奈川大学短期大学部を退職された後も、元気に過され、いましばらくは非常勤講師として本学に

出講しておられますが、私はキャンパスでお会いする折には、いつも先生に「私の70歳代を如何に過すべきか、お手本をみせて載せております」と時々申し上げています。

ここにあらためて田中正司先生の御健康と70歳代、さらに80歳代以降においても研究の稔り多いことを祈念しつつ
摺筆。